

太良町管理の橋梁点検結果について

1. 橋梁長寿命化修繕計画策定の目的

太良町が管理する橋梁は現在119橋あります。その大半は高度経済成長期以降に集中して建設された橋梁であり、それらの橋梁が建設後50年を経過しようとしています。

今後、橋梁の修繕・架け替えの需要が増大し、これに要するコストの増大が予想されますが、町の財政状況を考慮しつつ、道路利用者に対する安全性・信頼性を確保していく必要があります。

このような背景から、太良町では、国土交通省が定める長寿命化修繕計画策定事業費補助制度に基づき、橋梁の長寿命化に向けた以下の取り組みを行っています。

2. 橋梁長寿命化修繕計画策定の取り組み

(1) 従来の損傷が重度の状態になってから対策を行う事後的な管理手法の「対症療法型維持管理」から、損傷が軽度のうちに予防的に対策を行う「予防保全型維持管理」へ転換することにより、橋梁の長寿命化並びに修繕・架け替えに係る費用の縮減を図り、併せて安全・安心な道路通行空間の確保を図ります。

(2) 計画策定に先立ち、平成20年度から21年度に橋梁の点検を行いました。平成22年度に「太良町橋梁長寿命化修繕計画」を策定し、対策の優先順位や方法を明確にします。

3. 平成20年度～21年度の橋梁点検結果の概要

- 緊急の補修や床版打ち替えなどの対策が必要な橋梁が2橋。
- 次回の点検までに対策を行うことが望ましい橋梁が5橋。
- 上記以外で損傷が見られる橋梁が20橋。

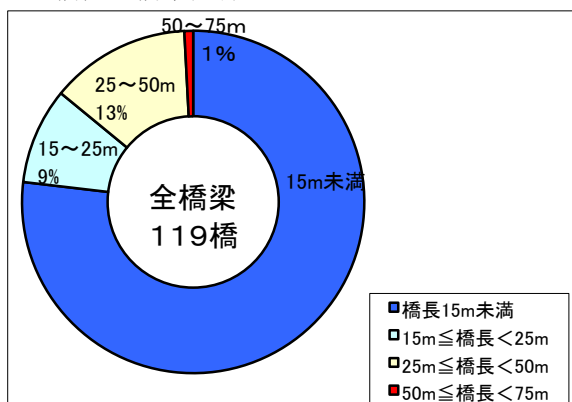
本年度は、引き続き、全管理橋梁の長寿命化修繕計画の策定を行います。

(1) 点検実施橋梁

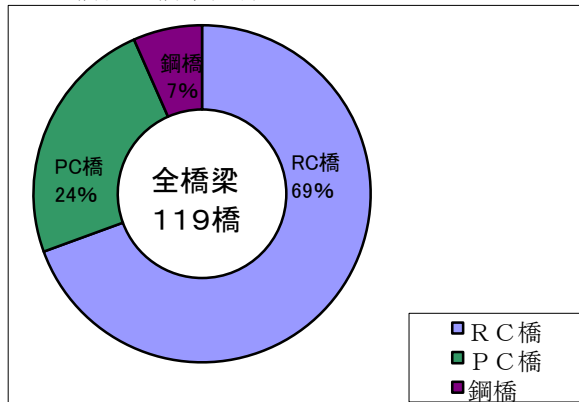
平成22年度現在、橋梁点検を実施した119橋の、橋長・橋種等の集計を図-1に示す。

- 橋長は15m未満の割合が約7割強を占め、50m～75mが1橋その他が15～50mとなっている。
- 橋種はコンクリート橋が全体の約9割、鋼橋が約1割となっている。
- 架設後の橋梁の経過年数（橋年数）は橋長15m以上の橋梁について、20年未満が約3割、30年～50年が5割、50年以上が約2割となっている。

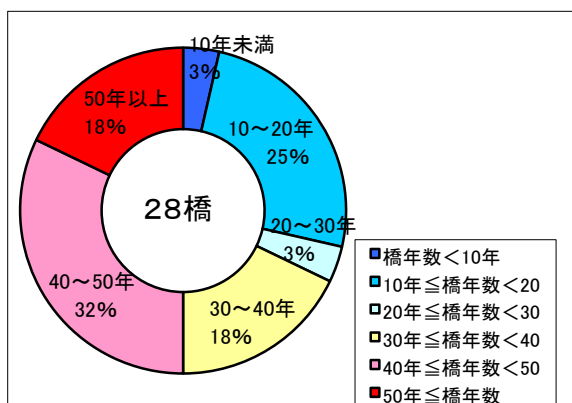
橋長別橋梁割合



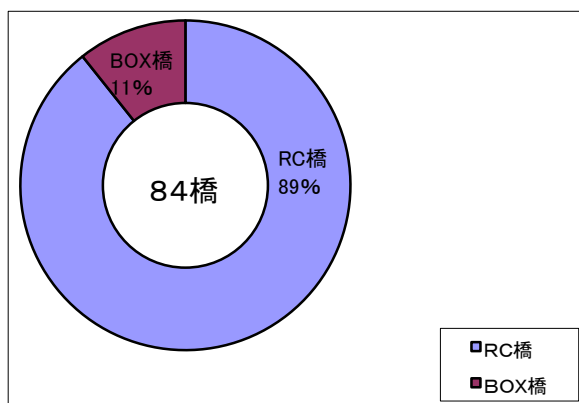
橋種別橋梁割合



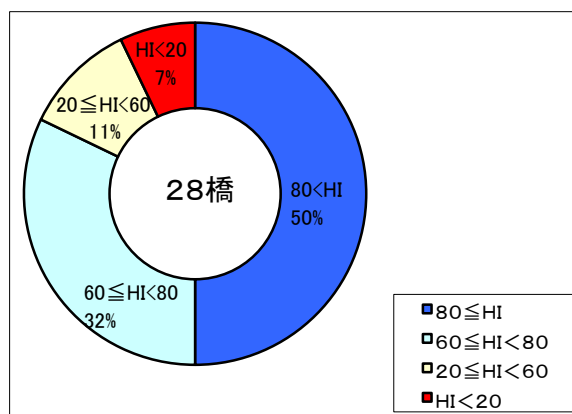
橋長15m以上の橋年数別橋梁割合



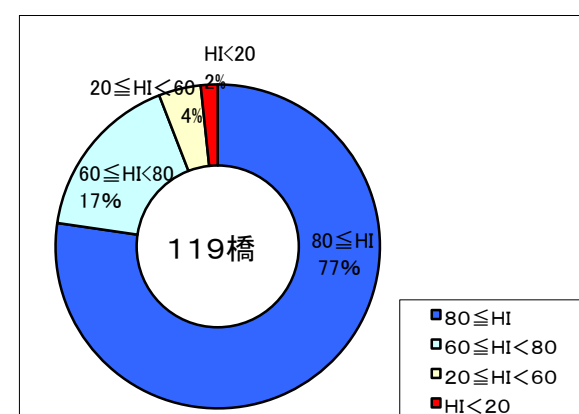
RC橋に占めるBOXカルバート橋の割合



橋長15m以上の橋梁の健全度割合



全橋梁の健全度割合



注：橋梁の健全度HI

80 ≤ HI：損傷が認められないか軽微であり、修繕が不要と見込まれる状態である。

60 ≤ HI < 80：損傷が確認されるが、適切な時期の修繕実施で長寿命化及びコスト削減を図ることが可能な状態。

20 ≤ HI < 60：損傷が著しく、緊急に修繕すべき状態。

HI < 20：部材取替え（架替え）を含む検討が必要